

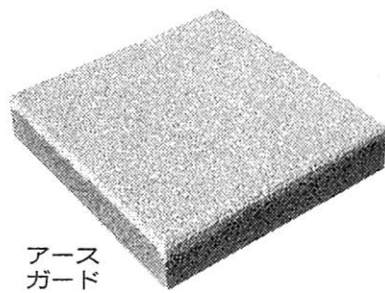
# 廃ガラスをリサイクル

江戸川区の建設3社とメーカー

## 保水ブロック販売施工

東京都江戸川区の建設会社とメーカーが連携し、新たな保水ブロックの販売・施工に乗り出す。廃ガラスをリサイクルした環境配慮型の製品で、市場規模が大きく、ヒートアイランド現象やゲリラ豪雨対策も急がれる首都圏での普及に向け、6月から本格的に新事業をスタートする。保水性ブロックはすでに、さまざまな商品があるが、「鉛など重金属が混じっていない」ことが特徴の一つという。

事業展開のため、江戸川区内に本社を置く早川建設（早川政男社長）、奥山建設（奥山圭一社長）、巴建工（松木俊明社長）の建設3社とサッシ卸売業のアベックス（三重県桑名市、阿部宏社長）、建材卸売業の丸和資材（岐阜県神戸町、和藤直也社長）が連携を結成。国土交通省の「建設企業の連携によるフロンティア事業」に選定された。都市部での普及促進を狙うのは、保水・透水製品「アースガード



アースガード

スガードシリーズ」。アベックスが、粉碎した廃ガラスに発泡材を加え、焼成炉で発泡させて作った「無機系多孔質軽量発泡資材」を基にして、丸和資材が製品開発した。同社試験データによると、規格値の保水ブロックやイン

ターロッキングブロックよりも、保水性能や水分の吸い上げ作用、すべり抵抗性が優れているという。

また、通常製品に比べ、重量は半分程度のため、現場技能者の作業負担軽減や輸送コストの削減が期待される。重量は用途に応じてコントロールできる。軽量であるが、曲げ強度の規格もクリアしている。無機鉱物性で耐火性能も高い。

販売・施工は建設3社が手掛ける。「まずは区の工事での採用を目指す」（早川社長）とし、公共機関での実績を積んだ上で、そのほかの分野にも営業展開していきたい考えだ。当面利益は期待できないというが、何より「地域に良いものを広めたい」（同）との思いが活力になっている。

今後は6月中にもウェブサイトを立ち上げる予定。販売活動と並行して、夏には試験施工を行い、現場でのデータ取得などを進めていく。テストマーケティングでは、中国

の建材メーカーからの引き合いもあり、海外進出の可能性も秘めている。